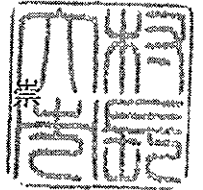


大市道第259号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

大村市長 松本



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

標記の件について、別紙のとおり意見を提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長崎県大村市

道路は、国民生活や経済・社会活動を支える最も基礎的な施設であり、その整備は全国民が長年にわたり熱望しているところです。

高齢化、少子化が進展している中、活力ある地域づくりを推進するとともに、地球規模での環境問題に対処し、安全で安心できる国土の実現を図るためには、道路整備はより一層重要となっています。

この様の中、下記の事項について要望いたします。

記

- 1 活力ある地域づくりのため、地方が真に必要としている道路整備を計画的に推進し、効果的かつ効率的に国民の期待する道路整備が実現できるよう、地方の声や実情に十分配慮していただきたい。
- 2 地域の実情に柔軟に対応するため、今後も、地方財政力に応じた交付率の引き上げなどを含んだ、自由度の高い交付金制度を継続していただきたい。
- 3 道路特定財源の一般財源化にあたっては、納税者の意見を十分に踏まえた上で結論を得るとともに、財源配分のありかたや各地方団体への影響を十分に検証し、必要な道路整備財源を安定的に確保していただきたい。

以上

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

長崎県大村市

○ 現状

大村市は長崎県本土のほぼ中間にあり、長崎県の二大都市である長崎市と佐世保市の中間にある都市である。空港、高速道路インターチェンジがあり、新幹線新大村駅も設置されることになっている。これらの高速交通体系が整備されているため、企業誘致も進み、人口も増加している。さらには、長崎県央地区、島原半島地区の唯一の三次医療施設である国立病院機構長崎医療センターも設置されているが、大村市を南北に縦断する幹線道路は国道34号のみであり、特に朝夕は混雑している状況である。

○ 課題

国道34号は、市内を南北に縦断する唯一の幹線道路であり、三次医療施設である国立病院機構長崎医療センターも近接している状況であるが、特に朝夕は混雑しており、混雑解消が急務となっている。国道34号は、市内の延長16.5kmの内3.7kmを大村拡幅事業として事業採択され、実施されているが、その内2.72kmは完成の目途がたっているが、残りの0.48kmの完成の目途がたっていない。

また、都市計画道路の久原池田線と池田沖田線は、国道34号のバイパス的機能を有するのみならず、高速道路インターチェンジや新幹線新駅に近接しており早急な完成が待たれる。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

長崎県大村市

利便性が高い快適なまちづくり

- ・ 人口増加や産業集積、交通量増大に対応した道路網の整備をはじめ、JR大村線の整備充実や生活交通路線としてのバスの運行を確保するとともに、長崎空港の機能強化や九州新幹線西九州ルート建設促進を図り、利便性の高い交通体系の整備に努めます。

幹線道路網の整備

- ・ 人口の増加や産業の集積、長崎空港、新幹線新駅、九州横断自動車道大村インターチェンジを利用する旅客及び貨物などによる交通量の増加に対応するため、国道34号の拡幅、久原池田線、池田沖田線などの都市計画道路の整備、九州新幹線新大村駅(仮称)周辺道路の整備を進めます。

今後の道路行政についての意見・提案

・ ③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

長崎県大村市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	幹線道路の整備	- 産業の立地・輸送力の増大 - 観光地へのアクセス改善 - 渋滞解消によるco2削減	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	社会資本ストックの老朽化等への対応	- 維持管理費の低減 - 総投資額の低減	
・地球温暖化の防止	交通渋滞の解消	- co2削減 - 輸送力の増大	